

令和4年7月28日  
愛媛大学  
太陽石油株式会社

## 愛媛大学大学院農学研究科 寄附講座「昆虫の飼料利用科学」 「昆虫を原料とした飼料によるマダイの養殖実証試験の開始」 に関する記者会見の開催について

愛媛大学では、太陽石油株式会社からの寄附金により、令和4年6月1日、大学院農学研究科に寄附講座「昆虫の飼料利用科学」を設置いたしました。本寄附講座では、未来の食料・飼料源である「昆虫」の機能性の研究開発を加速し、世界最先端の持続的食料生産技術の社会実装を目的とします。

このたび、本寄附講座の活動の一環として、秀長水産株式会社の協力のもと、宇和島市内の養殖漁場において、昆虫を原料とする養殖飼料を用いた世界初の実証試験を開始することになりました。この取組みは、昆虫飼料の本格的利用の第一歩であり、愛媛県、さらには日本の水産養殖の持続化に貢献できると期待しています。なお、本実証試験で生産されたマダイは、来年3月に出荷予定です。

つきましては、下記のとおり記者会見を実施しますので、ぜひ取材くださいますようお願いいたします。

### 記

■日 時：令和4年8月8日（月） 10時30分～

■場 所：愛媛大学 E.U. Regional Commons（愛称：ひめテラス）

1階 地域交流スクエア（愛媛県松山市文京町3番）

■会見者：愛媛大学長 仁科 弘重

愛媛大学大学院農学研究科 教授 三浦 猛

太陽石油株式会社 執行役員 未来事業デザイン室長 山川 哲央

太陽石油株式会社 未来事業デザイン室（松山所在）マネージャー 中原 誉晃

■陪席者：愛媛大学大学院農学研究科長 山内 聡

### <取材に関するお願い>

取材にお越しいただける場合は、  
8月4日（木）17時まで下記 URL  
又は二次元コードからお申し込みください。  
<https://forms.office.com/r/j546BY3iHx>



### 本件に関する問い合わせ先

愛媛大学大学院農学研究科

教授 三浦 猛

TEL：089-946-3684

Mail：miura.takeshi.mx@ehime-u.ac.jp

※送付資料2枚（本紙を含む）

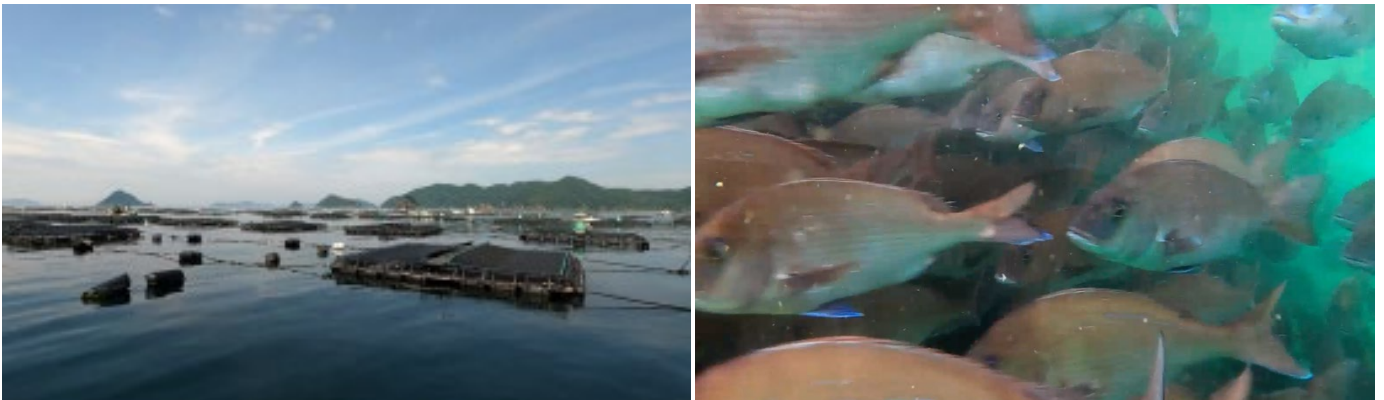
## 【概要】

昆虫は、持続的に生産可能な食料・飼料資源として注目されています。世界人口が爆発的に増大する中で、未来の食糧危機を救う手段として、昆虫食や、昆虫を利用した畜産・水産用の飼料の開発が世界各国で進められています。

愛媛大学では、太陽石油株式会社の寄附により、本年6月1日に「昆虫の飼料利用科学講座」を開設し、飼料用の昆虫生産の事業化を目指した研究開発を開始しました。この研究活動の一環として、昆虫が養殖用の飼料として使用可能か否かを確認することを目的に、秀長水産株式会社（宇和島市）のご協力のもと、愛媛県宇和島市のマダイの養殖場で8,000尾のマダイを用い、令和5年3月までの約8ヶ月間の本格的な養殖実証試験を、7月1日から開始しました。

昆虫は、環境にやさしい新しいタンパク源として世界的に注目されていますが、他のタンパク源には認められないユニークな機能を有していることが愛媛大学の研究で明らかとなっています。愛媛大学のこれまでの研究により、昆虫には、動物に対する機能性の分子が含まれていることが示されており、今回の実証試験では、この分子が養殖魚の生理機能に作用し、耐病性の向上や、肉質の改善に効果を示すことが期待されます。当寄附講座では、出荷が行われる3月までの期間、試験魚の成長を追跡するとともに、昆虫飼料の養殖マダイの生理状態および肉質への影響を詳細に解析するとともに、出荷時には試食会を開催し、昆虫がマダイ養殖の飼料として有効であるか否かを明らかにする予定です。このような本格的な実証試験は、世界で初めてのものです。

この取組みは、昆虫飼料の本格的利用の第一歩であり、愛媛県、さらには日本の水産養殖の持続化に貢献できると期待しています。



試験用飼料を給餌しているイカダ（左）とイカダの中のマダイ（右）